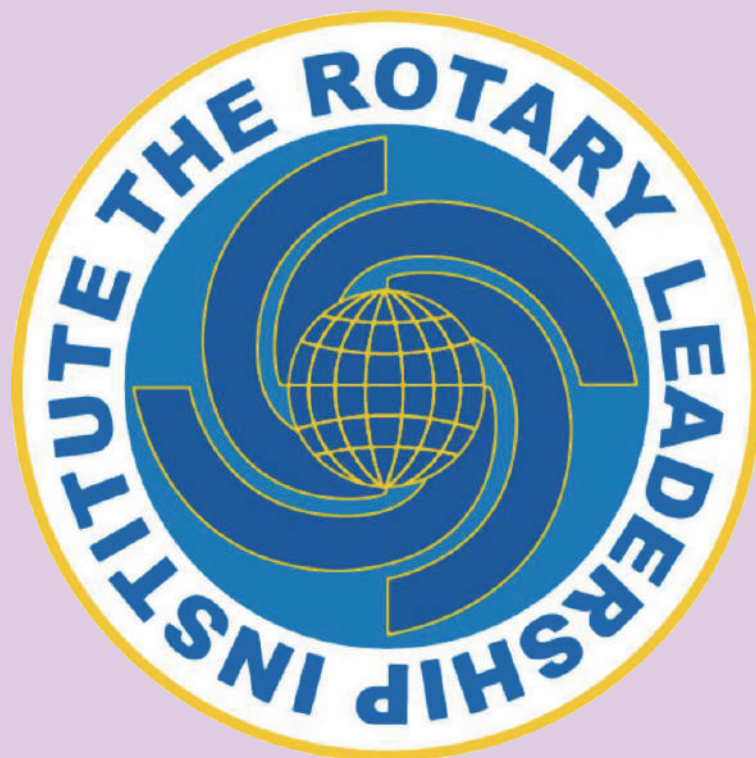


ロータリー・リーダーシップ研究会

The Rotary Leadership Institute(RLI)

RLI 参加者テキスト



RLI
2018~22

RLI 日本支部

カリキュラム委員会

ロータリー・リーダーシップ研究会

The Rotary Leadership Institute (RLI)

RLI 参加者テキスト

目 次

日本語版テキスト発刊にあたり	RLI日本支部委員長	北 清治	4
日本版カリキュラムについて	RLI日本支部カリキュラム委員長	刀根荘兵衛	5
カリキュラムのスパイラル展開について	カリキュラム副委員長	本田 博己	6
第1章 RLIカリキュラムの内容			
パート I			9
1.	ロータリーにおけるリーダーシップ		12
2.	私のロータリー世界		14
3.	倫理と職業奉仕		23
4.	財団Ⅰ 私たちの財団		29
5.	会員の参加を促す		41
6.	奉仕プロジェクトを創造する		48
パート II			53
1.	ロータリーの機会		56
2.	効果的なリーダーシップ戦略		63
3.	会員を勧誘する		67
4.	チーム作りとクラブコミュニケーション		71
5.	ロータリー財団Ⅱ 目標とする奉仕		80
6.	米山記念奨学事業		88
パート III			99
1.	戦略計画とクラブの分析		102
2.	ロータリー財団Ⅲ 国際奉仕		115
3.	公共イメージと広報		119
4.	強いクラブを創る		123
5.	規定審議会・決議審議会		139
6.	変化をもたらす		149
卒後コース			153
1.	ボランティアを動機づける		155
2.	ロータリーのルーツ		171
3.	ロータリーと倫理		179

第2章 効果的なファシリテーション・ガイド	191
第3章 R L I の準備と進め方	219
第4章 R L I 日本支部の会則	220

RLI 研修テキスト日本語版発刊にあたり

RLI 日本支部委員長 北 清治

この度、RLI 研修テキスト（2018－22 年度）日本語版が発刊できますことを嬉しく思いますと共に、今回の発刊にあたりまして日本支部カリキュラム委員長にご就任頂きました刀根荘兵衛委員長そしてカリキュラム委員会をはじめ関係者各位のご尽力に深く感謝申し上げます。

RLI は1992年アメリカ・ニュージャージー州第7510地区において、元 RI 理事デビット・リンネット氏の発案で始められた研修組織であります。日本では、2008年6月元 RI 理事南園義一日本支部委員長の下でスタートしております。2011年7月元 RI 理事黒田正宏氏に日本支部委員長が引き継がれ、2015年7月不肖私が日本支部委員長をお引き受けし今日に至っております。

RLI 日本支部は、その目的を、RLI の理念に従ってリーダーシップの研修を通じて、ロータリーの活性化と発展を願い、一人ひとりのロータリアンのロータリーへの理解とモチベーションを高め、リーダーシップを涵養することであるとしております。

現在、日本の21地区が参加しており、5地区が参加意思を表明し準備に入っております。世界では410以上の地区が参加しております。日本の全地区の参加によって、ロータリアンの自主性と卓越した指導力を涵養し、クラブの刷新性と柔軟性を育み、一層ロータリーが活性化されることを期待致しております。

2018年7月1日に開催されました日本支部会議で、RLI 日本支部会則の一部改訂、ファシリテーター委員会運営細則の承認、2018－21年度支部役員改選など次のステップへの準備が進んでおります。

特に、地区内におけるファシリテーターやディスカッションリーダー養成の必要性が強く求められております。一日も早くご期待に応えられるよう皆さんと共に力を合わせて行きたいと思っております。

本 RLI は、国際ロータリーの理事会において2002年2月 RLI の名前にロータリーの名前を使うことを許可し、ロータリーの地区によって管理されている草の根のプログラムとして認められております。

2013年の規定審議会で RI のプログラムとするよう決議（13-168）されましたが、既に充実したプログラムとして成功していること。もし RI のプログラムに組み込んだ場合、保証を与えるために管理的な重荷を引き受けることになるなどの理由で、現状の姿を求めています。2014-15年度ゲーリー・ホアン RI 会長はコメントを出し、RLI の成功を評価すると共に同じ認識を示しております。また、RLI 本部も RI 理事会と共通認識を持っております。

日本版カリキュラムについて

RLI 日本支部 カリキュラム委員会
2018-2022 年度 委員長 刀根荘兵衛

この度、カリキュラム委員長を拝命いたしました、2650 地区の刀根荘兵衛でございます。浅学菲才ではございますが、皆様のお役に立てますよう、精一杯努力させて戴きたいと存じますので、何卒よろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

さて、このほど待望の 2018-22 年度テキストがようやく RLI 本部から発表になりました。早速、そのカリキュラムを拝見したところ、プログラム構成は前回の内容とほぼ同じでしたが、いくつかのセクションでは質問内容が大きく変更されたり、参考資料が全く新しいものに入れ替わっている箇所も見受けられました。

ただし今回も、RLI カリキュラムの基本的な考え方は、リーダーシップ、奉仕、会員組織の強化の 3 つのスパイラルであり、この 3 本柱を軸を中心に、各パートが進むにつれて段階的に高度化する内容となっています。実は、この 3 つのスパイラルは RI が戦略計画で示している中核的価値観や優先項目に掲げられた内容と合致しており、この視点でロータリーを考え、議論することはまさに時宜にかなった内容だと言えます。

今回の日本語版テキストでは、従来通り、チームビルディングとコミュニケーションを一纏めに 1 セクションとし、戦略計画もシングルセクションに変更させて戴き、そこに日本独自の米山記念奨学会と規定審議会を挿入させて戴き、全部で合計 18 セクションと致しました。また、卒業後コースとして、さらに 1 セクション『ロータリーのルーツ (Roots of Rotary)』を追加し、より新鮮味のあるカリキュラムと致しました。実は、この追加セクションはアメリカのゾーン 33 で試験的に行われているカリキュラムから引用したもので、ロータリーの基本理念とその歴史について学ぶ内容となっております。

ロータリーの基本理念である『ロータリーの目的』の現代的な解釈を議論したり、五大奉仕とロータリーの目的の関連を考えるダイアグラムに書き込んだり、現在 RI が推進している『世界を変える行動人』キャンペーンとロータリーの目的の関連性について考えてみることで、改めてロータリーをもう一度振り返る良い教材になっているのではないかと思います。どうぞこの新しい卒業後コースにもチャレンジして戴ければと存じます。

RLI 本部テキストの翻訳にあたってはなるべく原文の意味を尊重し、かつ日本語として理解しやすいように工夫したつもりですが、まだまだ十分でない翻訳もあろうかと存じます。本来、英語と日本語は全く違う言語であり、その考え方や表現が違うため、英語を日本語に翻訳する場合、ぴったりと合う日本語になりにくいところもございますが、今後、皆様からの忌憚のないご意見を頂戴しながら、より日本語らしい翻訳となるよう心がけて参りたいと存じます。

今後とも皆様の温かいご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます、改訂版発行のご挨拶と致します。

2018 年 9 月吉日

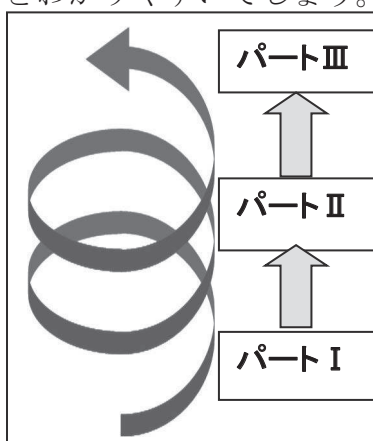
カリキュラムのスパイラル（らせん的）展開について

RLI 日本支部 カリキュラム委員会
2018-2022年度 副委員長 本田 博己

RLI テキストの 2012-2015 年 (RLI 創立 20 周年記念) 版では、「カリキュラム・スパイラル」という体系に各セッションが位置づけられていることがその最大の特長でした。

今回の最新版 (2018-2022 年版) では、カリキュラム・スパイラルの図は明示されていませんが、カリキュラム構成に大きな変更はなく、このスパイラルの構造は保たれています。

「スパイラル」の原語 “Spiral” には、「らせん (渦巻き) 状のもの」という語義があります。「RLI のカリキュラム・スパイラル」は、らせん階段に例えるとうわかりやすいでしょう。



らせん階段は、昇ってくる人を真上から見ると、円運動を繰り返しているだけですが、同じらせん階段を真横から見ると、人は1階から2階、2階から3階へとフロアを上がってきます。

今回のテキストは、1階（パートⅠ）では、私たちロータリアン一人一人が学ぶべきテーマが各セッションのテーマとなっています。

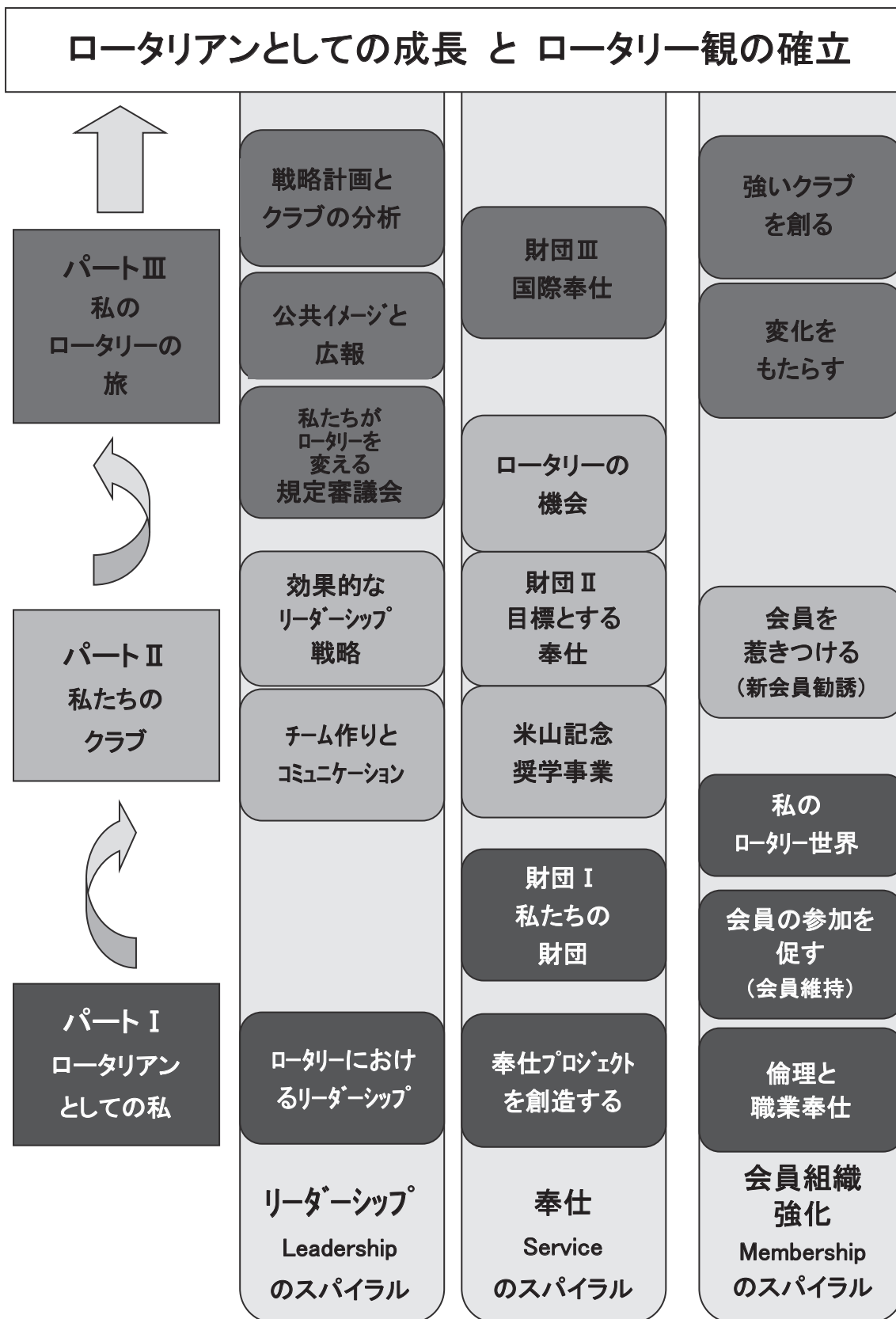
2階（パートⅡ）では、私たちの所属するロータリークラブが、より効果的なクラブに成長するための課題が各セッションのテーマとなっています。

そして、3階（パートⅢ）は、「私のロータリーの旅」“My Rotary Journey”とタイトルが付いているように、パートⅠとパートⅡでの学びを基に、より幅広く奥深いロータリーの世界を学ぶ「旅」となっています。そのゴール（目的地）は、私たち一人一人の、ロータリアンとしての成長とロータリー観の確立です。

「カリキュラム・スパイラル」のもう一つの特長は、カリキュラムが3つの大きな「スパイラル」の柱で構成されていることです。すなわち、「リーダーシップ」“Leadership”、「奉仕」“Service”、「会員組織強化」“Membership”の3本柱です。“Membership”は、狭義の「会員増強」（会員を増やすこと）だけでなく、会員自身やクラブ組織が成長・強化してゆくための「会員組織」の諸要素を示しています。パートⅠからパートⅢまでのすべてのセッションは、この3つの「スパイラル」の柱のどれかに含まれています。

RLI セミナーに参加される皆様が、このように構造的・体系的に構成されたテキストの「カリキュラム・スパイラル」の展開の流れを意識しながらコースに取り組んでいただければ、より一層ロータリー理解が進むに違いありません。

RLI カリキュラムのスパイラル（らせん的展開）



RLI について

RLI はロータリークラブの潜在的なリーダーのためのリーダーシップ開発プログラムを実施する多地区の「草の根連合組織」です。

RLI は 1992 年に設立され、今や世界のすべての大陸に支部を置く全世界的な組織となりました。

RLI は国際ロータリー (RI) の正式なプログラムではありませんが、多くの元 RI 会長や現、元、次期 RI 理事より大きな支援を得ています。

RI 理事会は RLI および同様の地区プログラムを推奨する決議案を採択しました。また、規定審議会では 2013 年に開催された規定審議会を含め、3 度 RIRLI プログラムを賛成多数で可決し、RI 理事会に推奨しています。

RLI のプログラムや歴史については、ウェブサイト www.rotaryleadershipinstitute.org をご参照ください。

RLI 推奨カリキュラム

RLI はすべての支部にカリキュラムを推奨し、その全概要を提供しています。カリキュラムは絶えず改定され、年々アップグレードされています。RLI の拡大成長に伴って、指導者を養成させるための十分な機会が各ゾーンに与えられ、大きな改定は 4 年ごとに実施されます。またそれぞれのゾーンに必要な翻訳も提供されます。

RI やロータリー財団の重要な変更はすべて、毎年すべての支部に提供されます。

すべてのカリキュラム資料や翻訳は RLI 資料ウェブサイト www.rlifile.com 上で、全会員に開示され、利用できるようになっています。

RLI カリキュラム委員会

委員長 Gray Israel、RLI Sunshine 支部

編集長 Bevin Wall ゾーン 33 RLI

ARGENTINA

CENTRAL/SOUTH &

BOLIVIA

PDG Juan Pedro Torroba,
Chair

PDG Miguel A. Martinez

ATLANTIC/ ATLANTIQUE

PP Kim Pearson, Chair

BUENOS AIRES & PERU

RI Dir-Elect Celia Giay, Chair

GREAT LAKES (US/ CANADA)

PDG Renee Merchant, Chair

HEART OF AMERICA (US)

PDG Jane Malloy, Chair

PDG Bob Malloy

S. ASIA (INDIA/ NEPAL/ SRI

LANKA) PP Binod Khaitan,

Ex.V-Chair

JAPAN 日本

PRID Seiji Kita, Chair

(北 清治 元 RI 理事)

MEXICO

PDG Adriana de la Fuente

PDG Salvador Rizzo Tavares,
Chair

NORTHEAST AMERICA (US)

PDG Knut Johnson, Training
Chair

PDG Ann Keim, Reg V.Chair

PRID David Linett, RLI-Int.
Chair

PDG Toni McAndrew, Chair

PDG Tam Mustapha, RLI-Int
V.Chair

PDG Michael Rabasca,

RLI-Int Ex. Director

PDG Frank Wargo, Materials
Chair

ST. LAURENT (QUEBEC, CANADA)

PDG Yves Fecteau, Chair

PDG Gilles Gravel

PDG Claude Martel

SUNSHINE (SOUTHEAST US/ CARIBBEAN)

DGN Robert "Bob" Arnold

PDG Jim Henry, Past Chair

PDG Gary Israel, Chair

Debbie Maymon, Registrar

PDG Doug Maymon,
Chair-Elect

Brenda Wendt, Secretary

ZONE 33 (MID-ATLANTIC US/ CARIBBEAN)

PRID Eric Adamson, Past Chair

PDG Bevin Wall, Ex. Director

Pam Wall, Faculty Trainer